

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	研究ゼミナールA(Seminar of Study A)		授業コード	P170136
担当教員名	足立 元		科目ナンバリングコード	P31701
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分	必修	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	卒業研究として希望する専門領域の担当教員クラスを履修すること。			
受講心得	受け身の姿勢にならず、積極的な姿勢で授業に臨んでください。			
教科書	必要に応じて資料を配付します。			
参考文献及び指定図書				
関連科目	デッサン、造形、CG関連科目等			

授業の目的	研究ゼミナールは4年次の卒業研究に着手するための準備を行うことを目的とした科目です。学生に専門教育科目の履修だけでは不足しがちな専門教育を学ぶ上での学習方法・学習態度を身につけます。
授業の概要	この科目は各専門領域の教員がゼミナール形式で開講することで、卒業研究に着手する上で必要となる専門領域に関するより高度な知識・技術の習得をめざします。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： 研究計画作成	研究計画書
第2週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第3週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第4週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第5週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第6週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第7週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第8週：	

中間発表会	作品、レポート等
第9週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第10週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第11週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第12週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第13週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第14週： 調査・研究・制作等	作品、レポート等
第15週： 最終発表会、作品等提出	作品、レポート、プレゼンテーション資料
第16週：期末試験	
授業の運営方法	(1)授業の形式 「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式
	(3)アクティブ・ラーニング
地域志向科目	該当しない
備考	

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	各自のテーマに対して深い関心を持ち、自ら意欲的に研究する姿勢を持つ。
<b>【知識・理解】</b>	研究テーマに関する専門的な知識を身につける。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	研究テーマに関する専門的な技能と表現力を身につける。
<b>【思考・判断・創造】</b>	専門的な知識・技能・表現力をもとに、研究テーマに対して独自性のある視点を持つ。

<b>○成績評価基準(合計100点)</b>			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	

<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			<b>20点</b>
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。		<b>20点</b>	<b>5点</b>
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		<b>20点</b>	<b>5点</b>
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		<b>20点</b>	<b>10点</b>

**(「人間力」について)**

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

**○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安**

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	